

（宛先）新潟市長

所在地 新潟市北区葛塚 3197 番地

団体名 葛塚東コミュニティ協議会

代表者名 会長 五十嵐隆吉

実績報告書

令和 6 年 12 月 23 日付け新北地総第 1074 号の 2 で変更交付決定のあった下記提案事業について、新潟市まちづくりパートナーシップ事業補助金交付要綱第 2 1 条の規定により、関係書類を添えて次のとおり実績を報告します。

記

市の課題（テーマ）	提出した部署名	北区役所地域総務課
	課題・テーマ名	自然の魅力や特徴を活かした観光振興
提案事業の名称	子ども達と創り出す「地域の宝箱」	
課題解決するまでの 事業全体の 実施予定期間	令和 5 年 9 月 23 日から 令和 7 年 10 月 7 日まで	
交付決定額	交付決定額	759,000 円
事業実施内容	「雁迎灯」実施報告（2024 年度） 1. はじめに 「雁迎灯」は、福島潟自然文化祭の象徴的なイベントであり、地元中学生や地域団体との協力を通じて、幻想的な光のアートを描き、多くの来場者に感動を提供する取り組みです。今年も継続的な発展を目指すとともに、作業の「時短アイテム」の導入など工夫を凝らし実施しました。 2. 事業内容 本年度は、前年の 2000 基の LED 照明をさらに増設し、2600 基へと強化しました。この増設により、より迫力のある演出を実現するとともに、地元の葛塚中学校の生徒たちと連携して設置作業を行い、地域の協力を深めることができました。	

残念ながら、大本の福島潟自然文化祭は荒天により中止となりましたが、「雁迎灯」は中学校の許可のもと措置作業を行い1週間にわたり点灯展示を実施しました。この取り組みにより、多くの地域住民や県内外、海外から福島潟の視察に来ていた来訪者が「雁迎灯」を鑑賞する機会を得ることができました。

3. 事業の成果

① 来場者数と地域貢献

点灯展示期間中、延べ来場者数は昨年を上回り、国内のみならず良いタイミングで外国からも訪問者を迎えることができました。また、葛塚中学校の生徒たちが設置作業に協力することで、次世代への地域文化継承の一助ともなりました。

② 開催協力金の増加

1週間の展示期間中に募った開催協力金は昨年度の約2倍となる26万円を超えました。これは地域住民や来場者からのイベントへの支持の高まりを示すものです。

③ 環境負荷の軽減

昨年からではありますが、従来のろうそくからLED照明への移行により、環境負荷を軽減しつつ、継続的かつ安定した光の演出が可能となりました。また、LEDライトの特性で照度が高く安定した光量を確保できました。

4. 将来の展望

現行の照明機器が廃版となったため、次年度以降は雁迎灯に関するソフト部分の強化を発展させていく計画です。特に以下の点に注力します

・地域との連携強化： 中学校や小学校、地域団体との協力関係をさらに深め、地域全体で取り組むイベントとしての価値を向上させます。

・多様な演出の追加： 来場者から寄せられた要望を反映し、光と自然を融合させた新たな演出に挑戦します。

5. おわりに

荒天の影響を乗り越え、地域の協力と工夫により成功を収めた「雁迎灯」。今後も地域文化の発信と持続的な発展を目指し、新たな挑戦を続けてまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。